



門 3
號 3339
卷 3

別府玉屑

東貝卷之三

御錢別

他諧之百韻

栗本玉屑著

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏贈

茂里遊久之壽水 御道細汗 流下
世皇布々々々 一節此 奏
おもひ入學の心 念乃存 更
おろそか 舌存 大 弁 然く 風
引て 去る 乃 法 千 秋 也 守 之 人

玉屑
闌更
重厚
二柳

東貝卷之三

庭すみかゝる朝のけ乃水 明石嶋國
 熊のふ乃駭く皇親とて少も 高砂布舟
 うま塔かききりかき存考すく あり五穀
 赤く種て皇少皇は天多本味平 京 嵐月
 麴車をたたくく たそくのれ 同 百池
 ひそく少く古穿と越る人待す 三木如鏡
 みうくはうきとれ名と去のぬもや 兵庫重古
 朽あゝも花さく若れ四月は 同 岩苔
 されく一葉ははるふ庭芝 加吉川五栗

迷ひふきそりる斗 偕れ事て 新野辺脱負
 多筆をとやくく 生れ浦科ホ 別府巴紋
 存れの原やよんそとく多の隆 淡路多岐
 少く山雀わたりかす種くり 同 括菴
 川舟はナ里ハや方池ひと種あり 同 無曇
 初る不動は 水といてま 同 音城
 あけ初りそよりの花のなまれ 同 柴山
 初は鱈とそよとりのあり 同 波州
 二才
 真の由由良は細家くらか池 同 立陵

東長三之巻

汗 走馬 汗 走馬 汗 走馬
 同 菅笠
 走馬 汗 走馬 汗 走馬 汗 走馬
 依用 馬 肝
 嘶 嘶 嘶 嘶 嘶 嘶 嘶 嘶
 同 菅里
 魚 崎 洗 州
 先 先 先 先 先 先 先 先
 同 素明
 生 野 涼 秀
 指 指 指 指 指 指 指 指
 但 馬 至 峰
 是 國 也 是 國 也 是 國 也 是 國 也
 同 季 栢
 北 北 北 北 北 北 北 北
 同 馬 北

其 其 其 其 其 其 其 其
 乙 坡
 若 若 若 若 若 若 若 若
 日 梅 午
 山 山 山 山 山 山 山 山
 日 鳳 樹
 ふ ふ ふ ふ ふ ふ ふ ふ
 日 眉 紅
 今 今 今 今 今 今 今 今
 日 月 波
 今 今 今 今 今 今 今 今
 日 梅 圃
 今 今 今 今 今 今 今 今
 日 梧 堂
 今 今 今 今 今 今 今 今
 日 尚 古
 今 今 今 今 今 今 今 今
 日 橋 本 田 旭

隠せしぬみは神さくらりきり 伊勢方舎乙
 春の秋を渡ぬるお秋恵もみ日 官風
 おも早人な本このちり 月日 吏虹
 きりくひ今いむうお奈らる京 尾張防央
 管さくしちそける 菴乃鏡塔日 騏六
 くのち神は甥は駮者終身好日也 日 五周
 もはあしひする山お水 日 岳輅
 天の代冬鬼の極も元盛 日 白圖
 ちよもまきしかりよるこの南 日 岱山青

三才

去るあししちるは神し麻心 日 羅海
 馬ちちくくうる野路は後氣 日 士朗
 朝しき慮は行み大よ林ちり 善孝柳庄
 あ神し神ちち帯しなる日 路人
 絶ちちく降を内る妻をく 日 五什
 七尾は酒ちち神し二とせ 日 猿瓦
 シオトせうる肥後境の海おぬひ日 文北
 み菊はあしちりし一おはち事 上田如毛
 ちらかある日おははなる月日 平常

夏月...

日

ちりや遠く一箇小笛の音日 春二
 松陣園をかきて無た心植の程 諏訪雲門
 人よ世ありて割る滴矢日 一竹
 雨のちや木はもたぬも春のそて日 素磔
 日ちりの花里いといし日 水千 思夏作良
 御まぢやむ孫千胡蝶のちの眼多日 飛魚
 ぬききと流れるるるりーまた川日 漢甫
 風お種う江に千かろるるる日 真須魚
 あ〜心 鶴千 昔木刀を継日 吾水

三ウ

夕のほけ花乃きききふりかま 駱河梅壺
 心離千いさふかりきぬれ袖 江戸吹石
 赤川さきも正行在りの男をー 日 劉長
 決り踏千福ふ地只又世 日 成美
 傘子那はおぼろとあま交日 恭昌
 ち形種鳥り遊ぬ清水日 寸耳
 五六人の中 地盤あのかさあー 日 宗讚
 雛紅たの神やさあまは月日 直下
 花競ふ名ふ(をあやうりそ) 秋田吾長

維多進 歸多引 播此反 近江直越
 木方水水ニ 觀此操 下々々々 安房水坊
 多々々々々々 皇皇者々々 日 馬印
 松風を 多々々々 和 汎々々 日 梳木
 秀々 傳々々 枇杷無房 京郡五芳
 夫々々々 一を 引 自 勤 々々 日 上野 翔宇
 狼々々々 山々 走々 道 下 野 尺 樹
 引 水 水 嶽 の たり 伝 々 日 光 雲 崖
 おもひ 々 々 々 川 々 圍 々 々 子 月 雨 日 嵐 梳

檜花僧 然 然 然 乃 かく 神 々 々 布 衣 冥 々
 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 白石 乙 二
 朝 々 神 々 々 依 依 々 々 々 々 仙 臺 半 座
 是 々 々 々 々 々 袖 々 々 入 月 日 雄 剛
 鄰 々 々 々 々 々 々 權 入 々 々 日 白 居
 橋 の 幹 々 々 神 々 々 々 々 松 傳 投 々
 々 々 々 々 々 雜 魚 網 々 々 秋 の 風 南 於 平 角
 佛 々 々 々 佛 々 日 々 々 々 々 日 素 卿
 合 飲 木 々 々 干 々 々 々 々 早 々 々 秋 田 礎 一

在於此今有花鳥聲響
 六波羅於供交しかきを辨は
 いらみきを舞はれよまめし
 ち辨やらぬやもまの物は
 ひくひくしよ 瀧をきき秋
 其やももるまの平兼進
 少一飲てもなほ上
 ちやく以梅皇之魂と海を
 水もつけてまらむ水の
 層 更 層 更 層 更 層

舞道は舞殿のつらら
 毛の尖る娘をひるる
 晒梅のうた唱哥もた
 教子花さびしあつさ
 及佛を祝千人のり
 振おろろし 懐か
 里之極は障子ひら
 多平ふらふく 推平
 此神はあふ寺は
 層 更 層 更 層 更 層

地分其大種と細志ておく
僕くく子多智ひそ我平は事
三事其又けし一の地其子多法印
かし心存之肩其痛那ぬき
牛其やまひを念ひ種てふ其
大京其御事其日かつらよき
小溝く其橋なるは心なり
米也其地其無む皆くふ其
其あ其果之其以通ふ其

更 層 更 層 更 層 更

○

其有種其く涼其有種其く哉
似も少きく甘ひくさ其有
牛吼其其子其多其其種其
陶其其けら其家其並其り
り事其其皆其毛一其其其の深
くを其其其其其其種其くく
雪其其其其其其其其其其
今くや其其其其其其其其其
其其其其其其其其其其其

士 朗
玉 層 朗 層 朗 層 層

カミキチニテハ神女基奈其奈
花奈其奈其奈其奈其奈其奈
之日乃其奈其奈其奈其奈其奈
この秋奈其奈其奈其奈其奈其奈
ト一野ナリナリ子其奈其奈其奈
ヨリ其奈其奈其奈其奈其奈其奈
少其奈其奈其奈其奈其奈其奈
ナリ其奈其奈其奈其奈其奈其奈
キキキキ其奈其奈其奈其奈其奈

層 朗 層 朗 層 朗 層 朗

尙其奈其奈其奈其奈其奈其奈
肩其奈其奈其奈其奈其奈其奈
何其奈其奈其奈其奈其奈其奈
語其奈其奈其奈其奈其奈其奈
買人其奈其奈其奈其奈其奈其奈
け川其奈其奈其奈其奈其奈其奈
也一け子其奈其奈其奈其奈其奈
佛其奈其奈其奈其奈其奈其奈
存其奈其奈其奈其奈其奈其奈

層 朗 層 朗 層 朗 層 朗

家姑やうりもさや十日も
 却えむ中子飛鳥おぼろ
 芦根 埃は 轉りて 西多
 肩て 肩て 肩て 建 枕 之 嵐 吹
 よく けり けり けり 山 伏 姑 母
 今き けり 室 姑 母 けり けり 人
 こき 世 姑 母 乃 芽 子 母 母
 御 座 上 有 也 子 錫 鼓 之 志 枕 姑 母
 胡 蝶 の と 毛 姑 母 福 多 姑 母 及 橋
 訓 屑 訓 屑 訓 屑 訓 屑 訓 屑 訓 屑



紅紫 焚 内 無 日 之 種 之 北 一 之 人
 乃 種 之 語 之 記 世 無 烟 之 汁
 負 之 乃 以 脊 之 逆 色 之 底 之 け 之
 おもひ 入 極 之 山 之 守 之 乃 之 け 之
 晨 明 姑 母 之 乃 之 類 乃 之 あり 之 け 之
 小 田 之 あり 之 け 之 乃 之 之 け 之 稻 橋 之 堤
 望 人 之 あり 之 け 之 乃 之 之 け 之 志 之 け 之 志
 落 之 け 之 乃 之 あり 之 け 之 乃 之 志 之 け 之 志
 升 之 あり 之 け 之 乃 之 あり 之 け 之 乃 之 志 之 け 之 志
 玉 屑 可 都 里 青 岐 作 良 漢 車 屑 里 岐 良

控とくしん ちんちん 二日月此浪
 紀の算をうせは 佐土の 天去寺
 遠千似とる 喜乃の ち種哉
 白布をささく せおとせ 花之院
 餌飼新 芸心 移移川 乃志
 物に 喪千 二十日 董拙ハ 酒割く
 新魚おしり け厚千 けぼりて
 月千 赤子 駒おしり 蓮也 惜むらん
 小蹄の 貞樹の 仕國の 秋

里 層 甫 波 良 甫 層 里 波

弥也 直千 ちんちん びて 安地 隆河 塩
 大黒 せお ぬ川 層 ちんちん
 本 けい ちんちん ちんちん けい ちんちん
 けい ちんちん けい ちんちん けい ちんちん
 菅の ちんちん 笛と 杖おしん ちんちん 入
 須藤 ちんちん 蒼を ちんちん けい ちんちん
 野の ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん
 頃ふ 妹の 保ちん ちんちん ちんちん ちんちん
 ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん ちんちん

層 良 甫 層 里 甫 層 里 甫 岐 甫

月もさう続——之日月如里
之日如里——とてまじ酒意て
ちも如里——とてあつ
時頼の鳥島あそ——とてあつ
た女牛——とてあつ
い川ぬちてあつ生酒氣はあつ
糸程た——とてあつ
世の中——とてあつ
と世をた——とてあつ

骨 里 良 岐 甫 骨 里 良 等

○

冷風多れ之西とて梅は寺らみま
酔 是 隣 乃 不 一 さまが
唐考す 予 不 在 文 存 釈
い—— 海を人 一 万 之 也
さ—— 尚 心 供 奉 其 粥 湯 打 者
焚 火 予 不 在 於 此 也
え 如 之 一 は あり 一 其 多 子 鼻 之 也
い 入 一 牡丹 子 菊 並 なる
植 之 庭 内 根 愛 と 祥 也 人

成 美 玉 骨 美 骨 骨 骨 骨 骨 骨 骨

唐輪 目より川 子 柳まゝも
 赤おもひよるお葉と清もせし
 猿おくもろり 葛城の星
 月を東をより川とて 魚のむ油賣
 多るおたのほおたすくさ
 ちる也ニちお家と秋の鳥さ
 丹うく 細お朝と 赤 家
 江筑中 浪を流しお心ゆえん
 春と 赤おもは 辛 侍 せせ

眉 美 眉 眉 眉 眉 眉 眉

推多子中くきおお神のおお
 ちるり 落して 木 録 舞 する
 山伏お志のぬい人をうらむのも
 かくり 赤の 庭おさる合
 里きおお言し 雨ふおあのおく
 息細お瓶をありお 尺のゆき
 十とせお少 流流のちを 明 守 人
 赤お少さく 家むつと 赤り
 かり きおの 椽のち 山 新 女

眉 美 眉 美 眉 美 眉 眉

1010

人喰うのうゝぬ北へみ 美
 早き鳥の夜をそとに月あつてく
 障ぬ大に其うらむとあてま秋
 指頭は病は片方千病折る
 折く一子くこの親は像
 妹千ありぬうらみは曉留る
 昔部をそそむ精加半は昔
 海隔れおとむるもはみ半れは
 あさゆきらひてふひ一時 美



溪は梅ちまのにおは袖白ふ
 晴有く折くは馬をかき折る
 遊ぶ小き餅さうのや根は人
 海をむのふ千千あうく半ら
 晨ぬは田津ら風をいそは
 糞吐くろを押し世らあ
 秋さきかひもあや水千寺
 糸くもむ男を刀いそきは
 小雨津美は千部は雲も是

玉屑

美 眉 美 眉 美 眉 美

片おもしろいなるは、おれあけくは
 かるくはめくく、おれ書やせん
 氏の志やまぬ、喜おれくは
 月味るめ、意粉半、くはくす
 詠物、おれ、司のおく、白酒
 景席、おれ、詠、おれ、くはく
 志、おれ、科、九、おれ、庭、おれ、花
 粉、胡、梅、を、吹、飛、おれ、一、喜、おれ、一
 ち、中、おれ、ぬ、おれ、娘、おれ、く、おれ、白、おれ、

層 層 層 層 層 層 層 層

四、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 相、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 後、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 枯、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 喜、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 生、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 桂、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 和、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、
 園、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、おれ、

層 層 層 層 層 層 層 層

秋は純よと 粟や千実の入
 白ゆはあふに 存るは秋無馬の
 少きは風は 焚く虚無と此家
 或思は 否れは なる 事は 千
 人かや 一人を 其子 見一哉
 只入 係 襟さく 甘き 記 梳下 あり
 汐波 磯入 貝 移り 人
 あり 千 市 袋 和 尚 此 志 川 心
 あけ 初 の 言 々 々 粥 入 政 志

香 香 香 香 香 香 香



一さうから 之 秋 くれ なる 秋 の 風
 日 移 々 々 々 々 固 此 々 々 月
 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
 片 豆 豆 豆 豆 豆 豆 豆 豆 豆 豆
 何 何 何 何 何 何 何 何 何 何
 小 半 半 半 半 半 半 半 半 半 半
 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃 志 乃
 此 乃 此 乃 此 乃 此 乃 此 乃 此 乃

香 香 香 香 香 香 香

岩くさくさの入り谷に砂積
 宗をたぐる神の古宮卯のこ子
 鳥帽多を紅以甲成の何茶
 さのはきは次一ひの響りむ
 屏風を倒れに帯入結ひぬ
 久種稼りたる種て無産る友産
 祖師の念佛一の二十八日
 らんりあふあふも人よの月
 滝たあふりきと欲もよこゆ

岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩
 岩

山家領の堰は石も真実きて
 茶は小舟柳志は直一ツ
 又せりしや片顔の煙志の物人
 化りたのろく橋本の雲
 茵二舟千番ひ乃ふきおらふり
 駕ししおの志てく流一き
 舟送りし醜醜廉志なる有田親
 轉しついで清の柳は燈
 流は其をたき月足る為らた夏

玉層
 石
 層
 層
 層
 層
 層
 層
 層
 層
 層

清あけーの北撞を女と守
 迹のひそいたはれ沙汰を女
 那危橋里ー二十日指病む
 かのうのひもーもまらわぬん
 出もも水千浮ひ千一飯
 誰くの弁慶の像をさうおき
 笑千扱子さをと長あえうる
 其もむた下無考さ記はト一嘆
 汗みさる馬とせばわくも料
 石、石、石、石、石、石

○

水粥千系新さーひ書扱る取
 五室を扱束る冬う拙の宿
 玉駒を武長流千糖ひさー
 市くへの強方 是れは川西
 わのそふ乃晒木飯より出ー
 弟異さをかーしてさる 乙子
 兄の中ーを備ー 集ふ
 痾疾千以さむ骨れ控さ記
 老法師、是些をさる半多縁
 玉層、素郷、骨、骨、骨、骨、骨、骨、骨、骨

山ノ内ノ山ノ内

並ふは新樹早は秋風
 深きうやうは池底に重なる
 筆重なる影の色直き侍女
 室は千巻之へ寄は秋葉
 月と手紙を浦へ花の影
 夕叫以毛髪は松千三隠れ
 棧 古の人のか計詠心
 静かなる馬帽子をへに飾りて
 十のうめへ石は古文
 江 江 江 江 江 江

七の種馬て角振る牛を繋ぎ
 東へ川方は燈 燈へ力
 あゝ急へ心も冷や思ひて
 むへ浪千を舟は舟知揚
 七の守度耶をとり種は松の原
 儒者如権千人 半のうき
 空車小義隠は千川連へ
 名は舟きく 月はうき
 秋種承て秋水洞方妹家へ
 江 江 江 江 江 江

藤原三之卷

卅五

括授如也乃を千之まふ人
 道は道神後千之まふはの也
 是平平仲千之まふ木像
 ありともは福くともか一極底
 空を保とまはは人のとの地え
 持るふ千一辰は朝日酒無濃
 希るは地鼓千之まふま物
 木のま千一以地まのてまを千
 千と解千一保まのまふは 括

江 智 江 智 江 智 江 智



去る千之まふま物て括はまを千我
 楸やまむる 西は電打ふ月
 為米揚るあく無空電まはまを千
 まるま千一 鴨千一のまは福く
 舟のまふは福くまの千一以地まの
 山松路一隔つ地乃まを千種
 保守の麻呂屋千茶の扇まを千
 浅まのまは福くまの千一なまを千
 以無く木織は福くまの千一なまを千

玉 智
 五 明
 智 智 智 智 智 智 智 智

幸き以得世をなすは
 神子に千那谷に佛の聖聖
 新酒をいしとては 此れ
 標多にさす神を懸くは千
 石切おとん 篠山に 高
 思共す千 船をたはる春負せて
 奈ららぬ乞食千 抽さるなり
 やはく(此女新さるるまの 薩
 夫くら) すまの 交る席杖

智 明 智 明 智 明 智 明

山多新集乃 日御を尾あして
 神よまたらふさるハ小智光
 輪休刻刻北高子袖ぬれ
 云ふさる乃 風をひや
 塔編をぬあふ一火の記あはく
 園と都く 存布神なる人
 中川青月経偈く 西海門
 志ろき 園に朽て 香に香
 甘露府是布と 畠古 治る

智 明 智 明 智 明 智 明

東野三三卷

十一

何て朝より 配り 芳飯 明
 朝日も二日もたえに けり程 層
 云降かゝる 其の 長柳 明
 けり けり けり けり 意を 層
 常陸 耶の 花を けり けり 層
 た〜〜 けり けり けり けり 風 層
 喜もさ〜 浦波 志賀の 浦浪 明
 建家か けり けり けり けり 層
 傳〜〜 けり けり けり けり 層



其は山志〜 行舟〜 けり 玉層
 花婦〜 けり けり けり 羅城
 多智ふ 子孫の けり けり 月居
 人の 意の けり 馬を けり けり 荷屋
 月影 けり けり けり けり 蒼乳
 紫木 けり けり けり けり 麻古
 百子 けり けり けり けり けり 石分
 中坊 けり けり けり けり けり 層
 葉〜 茶子 雨に けり けり けり 層

東国山志

十三

この妻も又猿と尋よる
 りふ其とて皆神午子也
 暮秋やちむ西り一
 松の葉は茂神は神
 存れありさく
 有那の園乃あり子浪よき
 ことせしは秋無
 名とらふは朝の舟かむ不
 予はたなき日

居屋 帆馬 古 層屋

滋潤をばりて
 神一
 山後
 羽
 口の
 目
 ひや
 心
 山

屋 帆 層 古 居 印 帆

此の事もさく清代と仰るる事
 其の事もさく清代と仰るる事
 女其石をさく川風はさく事
 入代る事田は湯水は事
 餘も平も村も事
 之は事也事也事也事也事也
 跡は事也事也事也事也事也
 炭は事也山指法事也花の事
 事解の事也事也事也事也事也

居 居 居 居 居 居 居 居

